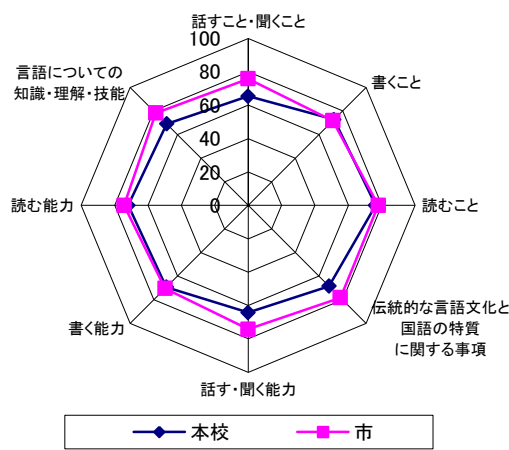


宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	65.4	75.9	71.7
	書くこと	72.8	71.8	73.2
	読むこと	76.4	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.4	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	64.3	74.2	70.8
	書く能力	69.2	70.4	71.0
	読む能力	71.9	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	69.1	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

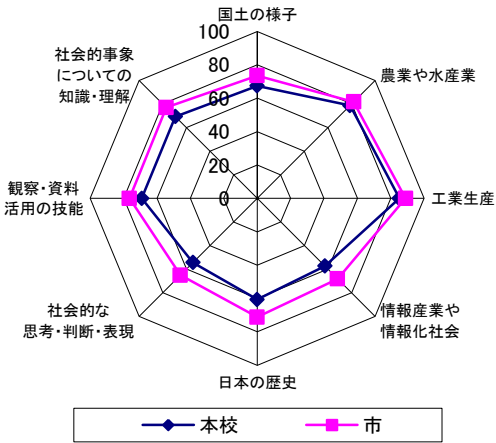
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、他の領域よりも低い。 ○話し手の意図を考えながら話合いの内容を聞きとる設問は、全員できていた。聞くことの指導を続けていきたい。 ●司会者の役割を理解し、話の流れに沿った司会者の言葉を自分で考えて記述する設問に誤答が多く、課題が見られる。	・話すこと・聞くことの学習の際に司会者の役割を確認したり、より多くの児童に司会の役割を経験させたりして、具体的な言葉を指導しながら体験的に司会者の役割を理解できるような活動を取り入れる。
書くこと	平均正答率は、市の平均を1ポイント上回った。 ○指定された長さで文章を書くことや2段落構成で文章を書くことはよくできていて市の平均を上回った。書くことに取り組めたのは、今年度学校全体で取り組んだノート指導で振り返りを書くことの成果でもあると考えられる。 ●与えられた情報を読み取り、読み取った内容を言葉で表現することに課題が見られる。	・情報を読み取り、その内容を文章に表現する力をはぐくむために資料をもとに書く活動を積極的に取り入れる。
読むこと	平均正答率は、市の平均を1.6ポイント下回った。 ○物語の読み取りの設問の4問中3問は市の平均を上回った。音読を家庭や学校で毎日取り入れたりと、朝の読書で物語を読む時間を確保したりした成果であることが考えられる。 ●説明文の内容を的確に読み取ることに課題が見られる。	・説明文では、読み取り方のポイントを指導するとともに文章同士のつながりや段落相互の関係を解説したり指導したりして、文章構成をとらえさせ、読解力の向上につながるよう指導の充実を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均を9.8ポイント下回った。 ○漢字の書きでは、全員書けた漢字があった。家庭学習や朝の学習で継続的に練習した成果であると考えられる。 ●文章中の主語の捉え方についてや敬語の使い方について課題が見られる。	・漢字を確実に覚えられるよう、練習や小テストなどを行い習熟を図る。また、敬語については、尊敬語と謙譲語の使い方の違いの理解を図り、日常生活でも実践できるような活動を積極的に取り入れる。 ・主語や述語など文法について理解を深めるために、ステップアップシートを活用した復習を取り入れる。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	67.4	73.6	76.2
	農業や水産業	78.7	81.9	77.5
	工業生産	85.2	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	57.4	68.2	61.0
	日本の歴史	60.6	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	54.4	65.1	62.1
	観察・資料活用技能	69.2	76.5	75.2
	社会的事象についての知識・理解	69.3	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

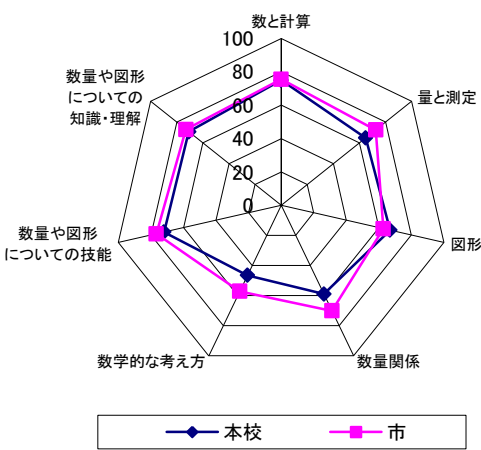
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は市の平均を6. 2ポイント下回った。 ○日本の周辺の海洋名や主な国の名称, 位置はほぼ理解できている。地図帳を活用して学習した成果といえる。 ●自然災害についての理解を問う設問では, 「災害」という用語を答えられない児童が多く, 用語を答える問題に課題がある。	・今後も社会科で学ぶべき国名や海洋名を地図帳を常時活用させることで定着させていく。また, 社会科の用語についてしっかりとおさえ, 用語を使って授業の振り返りやまとめをさせる活動を積極的に取り入れる。
農業や水産業	平均正答率は市の平均を3. 2ポイント下回った。 ○食料生産物の分布の資料の読み取りや稲作についての設問についてはよくできていた。 ●食料についての資料から外国から輸入している食料があることを読み取る活用の設問の正答率が低い。	・グラフの基本的な読み取り方を確認するとともに, 食料自給率について考えさせ, 外国から輸入している食品も少なくないということを理解させる。
工業生産	平均正答率は市の平均を3. 7ポイント下回った。 ○工業製品についての設問は市の平均を上回った。 ●環境保全について資料から読み取って考え, 表現することに課題が見られる。	・工業生産における環境保全についての取り組みの資料の読み取り方を確認して, 輸送のときに出る二酸化炭素の量を少なくすることが環境を大切にするにつながるということを理解させる。
情報産業や情報化社会	平均正答率は他の領域より低い。 ●放送・新聞などの産業の役割や責任の大きさについての理解に課題が見られる。 ●情報ネットワークと国民生活とのかかわりについて資料を読み取って考えることに課題が見られる。	・放送・新聞などの役割について確認し, それらの役割には責任があるということを復習プリントなどを使い, もう一度理解させる。 ・情報ネットワークは, 病院やコンビニエンス・ストアなど, 実は身近なところに存在することをふまえさせ, 生活のかかわりの中でとらえると考察しやすいことを指導する。
日本の歴史	平均正答率は, 市の平均を10. 5ポイント下回った。 ○安土桃山・江戸時代の織田信長に関する設問は正答率が高い。 ●大日本帝国憲法とドイツの憲法を比較する活用問題の正答率が低く, 共通点を見つけることに課題が見られる。	・大日本帝国憲法とドイツのワイマール憲法の共通点を見つけやすいように表にした資料を用意し, 比較する活動を取り入れて資料を読み取る力をつける。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.0	75.6	75.8
	量と測定	64.7	72.5	71.2
	図形	66.9	62.8	71.0
	数量関係	59.0	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	46.6	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	72.0	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	70.8	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

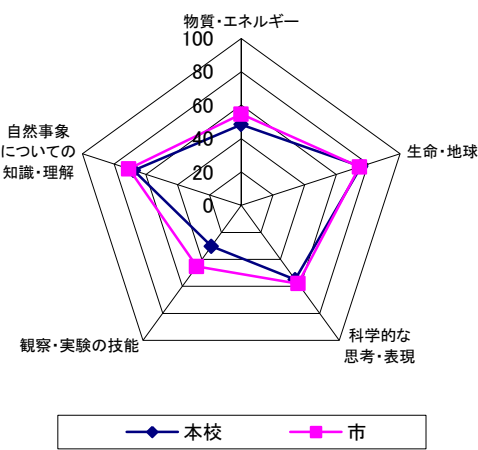
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均とほぼ同じであった。 ○小数のわり算の計算は、市の正答率を上回った。授業や朝の学習で復習の時間を取り入れた成果だと考えられる。 ●文章問題に合う図と式を選ぶ問題について、正しい式を選んでいるが図の選び方を誤っていた児童が多い。図を用いて数量の関係を考えることに課題が見られる。	・図を用いて考えたり説明したりする力を付けるため、数量関係を図で表す活動や図から読み取って式をつくる活動を積極的に取り入れる。
量と測定	平均正答率は市の平均を7.8ポイント下回った。 ○円柱の体積を求める式を選ぶ設問は全員できていた。宿題や復習の時間で繰り返し練習問題に取り組んでいた成果だと考えられる。 ●速さと時間から道のりを求める設問の正答率が低い。単位換算にも課題が見られる。	・単位を復習したり、速さの意味についてももう1度確認したりして活用する問題を解く機会を積極的に取り入れる。
図形	平均正答率は市の平均を4.1ポイント上回った。 ○円の直径から円周を求める式を選ぶ設問は市の正答率を上回った。乗り入れ授業で円周についての授業を行った成果だと考えられる。 ●点対称な図形を選んだり、合同な三角形を作図したりすることに課題が見られる。	・点対称の定義を確認したり、合同な三角形の作図について復習したり、個のつまずきをとらえ、個別に指導する。
数量関係	平均正答率は、他の領域より低い。 ○反比例の関係を表に表す設問は、市の正答率を上回った。 ●割合や比の設問の正答率が低く、特に帯グラフから割合を読み取り比較量を求めるなど活用の内容に課題が見られる。	・基礎問題の理解の定着を図るために、ミニテストやステップアップシートを活用して定期的に復習する機会を取り入れる。 ・割合とグラフの関係について理解を深めるために比べられる量・もとにする量・割合がグラフのどの部分にあたるのかを考えさせ、確認する活動を取り入れる。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	48.4	54.6	57.5
	生命・地球	75.4	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	55.0	58.0	59.6
	観察・実験の技能	30.4	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	67.8	70.7	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均を6.2ポイント下回った。 ○ふりこが1往復する時間を短くする方法を指摘する活用内容の設問では、良好な状況が見られた。 ●水溶液の実験技能や光合成の観察に課題が見られた。	・観察・実験では、一人一人に問題意識をもたせ、解決できるよう複数の実験器具を用意して活動させ、指導の充実を図る。
生命・地球	平均正答率は市の平均を0.9ポイント上回った。 ○魚のたんじょうや動物のからだのつくりとはたらきなどの設問については、よく理解している。 ●上弦の月の南中時刻や新月のときの太陽と月と地球の位置関係についての知識・理解に課題が見られる。	・目に見えない現象(月と地球と太陽の位置)は模型や映像を活用して理解できるように工夫した活動を取り入れる。